

I. 行事報告

舗装施工管理技術者 技術講習会

日 時 平成23年8月24～25日
場 所 フォレスト仙台（宮城県教育会館）
仙台市青葉区柏木1-2-45
受講者 約260名（2日間）



舗装施工管理技術者資格試験制度は、舗装工事に携わる技術者の評価を的確に行うことによって、舗装工事の品質の確保を図るために創設されました。この試験は平成7年度から実施され、合格者数は約61,000人（平成23年10月末現在）に達し、有資格技術者は全国各地の舗装工事に携わり、舗装の技術水準と品質の向上に貢献しています。

本制度では、5年ごとに登録更新を行うとともに、日進月歩で進展する舗装技術に対応するために、「最近の舗装技術の習得と技術の向上」を図ることを目的に、主として登録更新予定者を対象とした技術講習を毎年開催してきました。

平成22年10月に（財）道路保全技術センターより当協会に移管され、今年度から当協会が主催する講習会となり、8月24日から9月16日にかけて仙台会場ほか、札幌、東京、名古屋、大阪、広島、福岡の7会場で約1700名が受講しました。

< 講習科目・講師 >

① 舗装事業をめぐる社会・経済情勢と技術者制度

(24日) 東北地方整備局 道路部

道路工事課長 柴田 吉勝 様

(25日) 東北地方整備局 道路部

道路情報管理官 赤川 正一 様

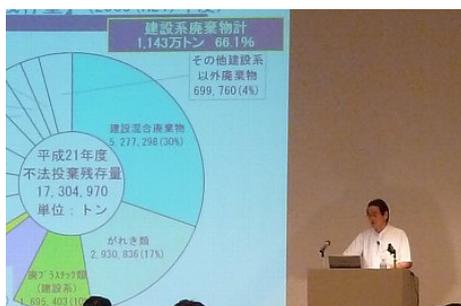
② 舗装工事の安全対策

③ 建設副産物対策

道建協本部 環境・安全労働委員会 委員 樋口 貞夫 様

④ 最近の舗装技術の動向

道建協本部 技術委員会 委員 泉 秀俊 様



平成23年度 安全環境講習会

日 時 平成23年10月13日(木)

13:00~17:20

場 所 宮城県建設産業会館 1階会議室

(仙台市青葉区)

主 催 道建協・安全環境委員会

参加者 約90名

(受講者 75名(会員19社))



(写真提供:建設新聞社)

安全環境委員会は、「ゼロ災害」を目標に、会員会社の安全活動のレベルアップを支援するために、現場安全パトロールを中心に活動を展開していますが、その一環として毎年安全環境講習会を開催してきました。今年は震災の影響でずれ込み、災害復旧工事で忙しい時期での開催となりましたが、例年同様会員各社から多数の受講者がありました。

当地が3.11大震災の被災地でもあったことから、今回は東北地方整備局の東日本大震災への対応についての講話を企画し、佐藤防災課長から発災後の初期対応から今後の震災対応への課題まで、生々しい映像を交えながら、多岐にわたるお話がありました。

優良工事の事例報告も写真を多用して、簡潔で分かりやすい説明で、4時間超という盛りだくさんの講習でしたが、皆さん最後まで熱心に聴講していました。

現場の皆さん「ご安全に！」

開会のあいさつ 宮村 博三委員長 (抜粋)

- ・震災から7ヶ月経ち、沿岸部でも災害廃棄物の処理が開始され、道路の災害復旧工事も発注されてきていることから、今後復興への動きが本格化するものと思われま
- ・会員各社常日頃から、様々な工夫を重ね、安全対策に取り組んでこられていると思
- ・今年安全週間のスローガン「安全は家族の願い 企業の礎 創ろう元気な日本！」は、企業を支えるのはそこで働く人であり、その安全こそが企業の力の源泉であり、安全に働くことは家族が安心して暮らすための大前提あり、そして未曾有の大震災を克服し、安全から元気な日本を創るメッセージが盛り込まれております。

講 話

(1)「最近の道路の話題と工事事故の動向について」

国土交通省東北地方整備局

道路情報管理官 赤川 正一 様

- ①東日本大震災と道路
- ②工事事故の事例及び原因
- ③工事事故に伴う措置等、入札契約制度
- ④性能管理型舗装工事の試行、長期保証付き舗装工



事

⑤今後の動向（H 2 4 概算要求）

(2) 「安全衛生管理の留意点について」

宮城労働局 仙台労働基準監督署

安全衛生課長 高橋 俊幸 様

(3) 「東日本大震災について」

国土交通省東北地方整備局 企画部

防災課長 佐藤 和徳 様

地震の概要→大震災への対応方針→陸・海・空路の啓開→
自治体・被災者支援→釜石山田道路の利用→仙台東部道路
の減災→三陸沿岸道路の新しい考え方→教訓・反省



(4) 22年度優良工事・事例報告

①片岸地区道路改良舗装工事 大成ロテック(株) 小野 元彦 氏

②三瀬トンネル舗装工事 (株)佐藤渡辺 岩谷 隆央 氏

③円部地区道路改良舗装工事 日本道路(株) 渡邊 芳春 氏

④相野谷交差点改良工事 日建工業(株) 早坂 浩明 氏

(5) 閉会のことば 上河 忍 安全環境副委員長

「道路功労者表彰（日本道路協会）」の表彰伝達式

日 時 平成23年8月24日（水）

場 所 ホテル法華クラブ仙台

（仙台市青葉区本町）

社団法人 日本道路協会は事業の一環として、毎年8月10日「道の日」に、わが国の道路整備事業の発展にご尽力された個人、及び団体を表彰してきました。道建協関係の受賞者は「道路建設業関係会社の従業員として、多年（概ね二十年以上）にわたり業務に精励し、施工の改善・合理化、作業効率等の推進に尽力し、他の模範となる者（個人）」という事由で表彰対象となっており、道建協本部からの推薦をうけて、主催の日本道路協会の表彰者を決定しています。受賞者への表彰は、各推薦団体が代行することになっており、東北支部においては早稲田支部長、川内幹事長が参席し、受賞者12名（3名欠席）に対する表彰状の伝達を行ないました。



受賞者（12名・順不同 敬称略）

佐々木 秀 勝	東亜道路工業株式会社 東北支社
佐 藤 仁	日建工業株式会社
鎌 田 金 生	福田道路株式会社 東北支店
斎 藤 正 喜	福田道路株式会社 東北支店
渋谷 清 志	福田道路株式会社 東北支店
田 中 正 二	前田道路株式会社 東北支店
松 本 利 一	前田道路株式会社 東北支店
近 藤 優	鹿島道路株式会社 北日本支店
寺 門 清 平	株式会社佐藤渡辺 東北支店
大 場 秋 夫	株式会社佐藤渡辺 東北支店
佐 藤 竹 尚	株式会社佐藤渡辺 東北支店
長 沢 健	株式会社佐藤渡辺 東北支店

支部長からの祝辞（抜粋）

東北では、補正予算の成立に伴い、復興への動きが本格化してきます。皆様方には、長年現場で培われてきた技量を十分に発揮していただき、郷土の安全・安心を守る道路づくりに貢献してほしいと、思っております。これからも健康に十分ご留意され、ご活躍下さい。本日の受賞まことにめでとうございます。

Ⅱ . 対 外 活 動

(H23/8/1～)

1) 関係機関への表敬訪問

東北地方整備局

9月1日 岩崎 泰彦副局長

早稲田支部長、川内幹事長、若狭委員、事務局長

2) 東北地方整備局関係

「E E 東北 ’ 1 1」 実行委員会

日 時 第2回：平成23年10月17日（月）

場 所 フォレスト仙台

出席者 川内幹事長

議 題 1) 「E E 東北’ 1 1」開催について

2) E E 東北の実施方針について

* 「E E 東北 ’ 1 1」は6月2～3日の開催に向け、出展募集を行ないましたが、3.11 震災のため、今年度の開催は中止することになりました。

3) 東日本高速道路(株)東北支社関係

東北支社管内工事安全協議会 管理部会「震災本復旧工事 臨時安全大会」

日 時 平成23年9月29日（木）

場 所 東日本高速道路(株)東北支社
出席者 官村 安全環境委員長
・過去の事故と対策
・過去の安全パトロールの指摘事項と対策
・先行工事の安全対策と渋滞対策

4) 後援行事他

①第12回日沿道建設促進フォーラム (後援)

日 時 平成23年10月12日(水)

場 所 秋田市 秋田キャッスルホテル

出席者 早稲田支部長

次 第 講演「日沿道の果たす役割と地域経済の活性化」

DOWAホールディングス(株)相談役 吉川 廣和 氏

意見発表—青森・秋田・山形・新潟県から各1名

大会決議 秋田商工会議所会頭 渡邊 靖彦 氏

②「東北地区 建設物価懇談会」

日 時 平成23年10月13日(木)

場 所 東北地方整備局 会議室

主 催 財団法人 建設物価調査会

出席者 川内幹事長

議 題 ①主要建設資材の需要・価格動向について

②資材価格の変動要因について

③意見交換 ほか

Ⅲ. 委員会等の活動状況

(H23/8/1~)

1) 幹事会

【第4回】 日 時 平成23年9月27日(火)

出席者 早稲田支部長、川内幹事長、幹事11名

議 事 ①23年度 安全環境講習会・安全パトロールについて

②アス混合物事前審査の実施状況について

③AEDの寄贈について

④震災支援活動の経過報告

2) 公共工事委員会

日 時 平成23年9月7日(水)

出席者 松谷委員長、委員ほか14名、(佐藤、熊本、畑、川村、新田、三上、
佐藤、川内、眞籠、若狭、小野、吉元、阿部、谷内)

議 事 宮城県土木部との意見交換について

要望事項・メンバーの検討、

<WG>

日 時 平成23年10月24日(月)

出席者 佐藤、山本、熊本、秋山、手塚、新田、網代、若狭、大山

議 事 整備局担当部との研究会について
議題の集約・検討、

3) 安全環境委員会

日 時 平成23年9月20日(火)

場 所 道建協 会議室

出席者 宮村委員長、上河副委員長、委員10名(須藤、鈴木、大谷、菊池、斎藤、
高橋、早坂、秋山、永澤、伊藤忠、佐々木)

議 事 ①安全環境講習会について
②官民合同パトロールについて
③安全パトロール計画について (班編成)

<幹事会>

平成23年9月14日(水)

宮村委員長、上河副委員長、秋山、伊藤勝、伊藤忠

○委員会素案の検討

4) 防 災 委員会 (WG)

日 時 平成23年9月5日(月)

出席者 近藤委員長、小野寺、伊藤忠、大山、浪岡、新田

議 事 ①23年度活動計画について
防災訓練(中止)に代わる活動について
②防災協定の見直し、検討
③震災復旧工事アンケートの実施

日 時 平成23年10月11日(火)

出席者 近藤委員長、小野寺、網代、伊藤忠、大山、浪岡、新田

議 事 ①3.11大震災 道建協対応概況報告
②震災復旧工事アンケート結果のまとめ
③防災協定の運用についての検討



[石製ローラ 野蒜築港跡 2009.11]

『紅葉』

北日本支店 営業部 橋元 哲也

震災から半年以上が経過し、建設業界は多忙を極めている状況下いつの間にか咲いたキンモクセイの香りや山々の木々が色づき始めたことにふと気づき、つかの間の安堵をようやく感じられるようになった気がする。

例年であれば春に『花見』秋には『紅葉狩り』であるが震災のもと『花見』を楽しめなかった今年は、せめて『紅葉狩り』だけでもと思うのは私だけであろうか？

色づく紅葉を眺めながら収穫した食材で彩られた弁当を拵げ束の間のひとときを過ごしたいものである。

紅葉や黄葉が色づき始めるのには、日最低気温8℃以下だそうで、これが5℃以下になると黄葉が一気に進むとされている。

また、美しさの条件には「昼夜の気温の差が大きい」こと「空気が汚れていない」など光合成を行い易い条件が必要だそうで、気温が低いと速まり、気温が高いと遅くなる。

今年は例年に比べやや遅く色づき始め、10月中旬～10月下旬に見頃を迎えそうである。

さて、この「狩り」とは「草花を眺めること」をさしており平安時代には、実際に紅葉した木の枝を手折り（狩り）、手のひらにのせて鑑賞するという風習があったそうである。放射



性セシウムやらの影響が懸念される今日では平安時代のような「狩り」は到底無理な話であり、収穫を感謝し弁当を拵げることさえままならない。

環境省は、1ミリシーベルト以上の地域を基準に国の責任で除染作業をするという方針を決めたが、以前のような『紅葉狩り』を迎えられる日々が訪れるまでには膨大な時間と労力がかかるであろうと思われる。

復興や除染を進め、安心して『花見』や『紅葉狩り』を楽しめる日々を一日も早くとり戻さなければならない。

建設業に従事する者として尽力しなければならない。

色づくゆく山々を見ながら認識を新たにしたい。

紅葉狩りの弁当を「弁当仕舞い」という地方もあるそうであるが花見の弁当「弁当始め」があつてこそその「弁当仕舞い」を早く戴きたいものである。

『 職場の紹介 』

東北支店 経理課 新井 孝弘

当社東北支店は2001年に現在の住所、仙台市青葉区二日町4丁目11番へ移って来ました。「荒城の月」の作詞で有名な土井晩翠ゆかりの晩翠通りに面しており仙台駅からはバスで約10分、市営地下鉄「勾当台公園」で徒歩7分の立地にあります。支店から徒歩5分以内の範囲には多くの官公庁・法務局、取引先銀行、郵便局があり、仙台駅からはやや離れているものの日常の業務を行う上では恵まれた立地条件にあります。またコンビニエンスストアやスーパー、飲食店も付近に多くあるため昼食やちょっとした買物へ出かける際も不便をきたしません。

さて弊社東北支店は東北六県に15の営業所、17の合材工場（共同企業体含む）を展開し、総勢265名の職員が大西支店長のもと協力しあい日々業務にあたっています。

さらに先般の東日本大震災後、東北地方のいちはやい復興のために全国からおよそ50名の応援協力を得て職員・協力会社一丸となり、被災された方々・地域のためにがれきの撤去・仮舗装・仮設住宅等の活動を行いました。現在も継続しているところもあります。

また道建協会員皆様の協力もあり、なんとかたちになったと感謝しております。

完全な復興となるとどれだけかかるのかわかりませんが、会員の皆様と共に協力しあって、できる限り東北の復活の手助けをしたいと思っております。



随 想

『 想 定 外 』

防災委員長 近 藤 雅 孝

(大成ロテック株式会社 東北支社)



仙台市内の銀杏も色づきははじめ、少し肌寒さを感じる今日この頃でございます。月日の流れるのは早いもので、3月11日の東日本大震災より、8ヶ月が過ぎようとしております。会員各位に置かれましては、震災発生より現在まで復旧、復興に向けて日々邁進のことと思います。

さて、年度末になるとその年の流行語というか、一番印象に残った言葉を探すのですが、今年度はまだ11月ですが個人的に、早々と決定してしまいました。それは、震災発生から現在まで、日本だけでなく、世界の各地で激動の年であり人災、天災が発生し、困窮していることは明らかです。

その中で選んだ言葉が、『想定外』の三文字です。

震災から3ヶ月くらい、皆さんこの言葉を耳にされたことは、記憶に新しいと思います。我々、建設業に携わる者にとって、災害と事故は隣り合わせであり、両方も突発的に、かつ予想すら間々ならず、『想定外』の事が発生します。発生したとき誰も、予想できなかつた、想定できなかつたと思うのではないのでしょうか。ただ、災害は別にして、我々の現場の事故に関しては、この『想定外』という言葉は、通用しないと私は思っております。

どうか皆さん、復旧・復興への事業で忙しい日々を送って見えると思いますが、事故には『想定外』は通用しないことを肝に銘じ、予測、想定を繰り返し実施してこの未曾有の大震災の年を乗り切ろうではありませんか

(平成23年7月記)

道建協ホームページの紹介

道建協HPを見たことありますか？

イチオシは、動画「5分間クッキング アスファルト合材」(中部大学生の制作)！！

道路・舗装・道建協に関係する、いろんな情報・資料が盛り込まれています。

舗装施工管理技術者試験やアス混合物事前審査結果も簡単に見ることができます。

東北支部の活動もアップされています。

①「防災マップ 東北地区アスファルトプラント位置図」

②本広報誌「道建協とうほく」も44号から掲載中。

《下記の上段メニューバー「協会活動」⇒「支部活動情報」右欄ファイル・選択》

是非、気軽にのぞいてみてください。

社団法人 日本道路建設業協会

English

Home | 協会案内 | 舗装技術 | 機関誌「道路建設」 | 協会活動 | 統計資料 | 道路試験所 | 舗装施工管理試験

社会資本の中でも、国民に深く関わりのある道路と舗装について御理解をいただくために発信しています

基本方針
道路整備の推進、道路技術の向上、道路建設業の健全な発展に基づき、積極的な活動を行うこととする。
また、「道建協中期ビジョン2005-10」道路建設業の輝かしい将来像に向けて一貫に掲げる道路建設市場の変化への対応、技術と経営に優れた企業が自由に伸びられる環境の実現、道路整備の着実な発展、安全確保、社会的責任の全うに向けてその実現のために活動する。

未来につながるみんなの道路
制作 (社)日本道路建設業協会

2010 ISAP2010名古屋会議 展示動画
制作 中部大学 人文学部 コミュニケーション学科

2010建設テクノフェア・ISAP道のテクノロジー展
03:15 - 620x480 - 2.8MB
Video: Sorenson H.263 Audio: MP3

5分間クッキングアスファルト合材
04:20 - 640x480 - 19.4MB
Video: Sorenson H.263 Audio: MP3

排水性舗装
04:43 - 640x480 - 20.4MB
Video: Sorenson H.263 Audio: MP3

ヒートアイランドを和らげる道路
07:24 - 640x480 - 32.2MB
Video: Sorenson H.263 Audio: MP3

高齢者が保ちやすい道路
06:37 - 640x480 - 28.5MB
Video: Sorenson H.263 Audio: MP3

FLAVER 3.0 / FLV & MP3 DEMO Playlist / REXE | PHILIPM MUMU
total 33:23

道路建設業協会員へのお知らせ | 舗装施工管理技術者資格試験 | 舗装路面騒音測定予約状況
国際イベントカレンダー | アスファルト混合物事前審査制度 | 「第12回北陸道路舗装会議」案内

編集後記 No. 46 道建協とうほく 担当

伊藤 忠良（常盤工業㈱ 東北支店）

柴田 秀明（東京舗装工業㈱ 東北支店）

千年に一度といわれる未曾有の東日本大震災（2011年3月11日）が、**地震、津波、原発、風評**と四重の大きな被害と悲しみをもたらしました。

日本は今、地震の活動期に入っているとされています。東日本大震災により地殻が緩みM7クラス以上の巨大地震発生の切迫性も指摘されています。

去る9月1日は震災後初めての防災の日を迎えました。各地の自治体では地域防災計画の見直す動きがありますが、今後も「**巨大地震がおこりうる**」という覚悟のもと、教訓を基に防災への取り組みが不可欠であります。

日本道路建設業協会としても、大震災の経験を踏まえ、実践的に動きやすい計画を備えておくことも必要であります。

原発事故は、想定外の自然災害というものの、速やかな収束を願うと共に、一刻も早い被災地の復興が図られることを願っています。

がんばろう！東北

今年最後の（No.46号道建協とうほく）発刊となりました。

寄稿いただいた皆さま、ご協力誠にありがとうございました。

